

# 財務部 部長マニフェスト（評価及び検証）

## 重点課題 ①

### 計画的な財政運営による持続的で健全な行財政基盤の確立 **部分達成**

（作成日）平成 25 年 8 月 23 日

#### 戦略課題の目標

将来予測が難しい状況の中、社会情勢や経済状況に対応できる持続的・自立的な行財政基盤の確立に向けて、平成 26 年度以降計画的に財政の健全化に努めます。

（評価日）平成 26 年 1 月 31 日

#### セルフレビュー

市税の伸びが期待できない状況のなか、既存経費の見直し、公営企業の収支改善が進まず、たいへん厳しい財政状況が続いている。

#### 施策推進上の目標

- ① 計画的な財政運営  
「柏原市行財政健全化戦略」のもと計画的で規律ある財政運営に努めます。
- ② 経常予算の抜本的見直し検討  
平成 26 年度予算編成に向けて、事務事業の既存経費の抜本的検討を進めます。

#### 取組結果・実施状況

既存経費、既存事業の見直しに取り組んだが、廃止に対する抵抗が強く、平成 25 年度決算見込み、平成 26 年度当初予算案ともにたいへん厳しい状況になっている。

- ・市単独事業における部内でのスクラップアンドビルド（新規事業の実施には必ず既存事業の廃止・縮小をすること）を徹底
- ・実施計画の策定に伴い、査定による事業規模等の抑制、中長期見通しを構築

### アウトプット

- ① 平成 25 年度において収支不足が見込まれる中、必要な事業規模等を再精査
- ② 庁舎建設基金借入金（2 億 5 千万円）の早期返済（平成 31 年度末一括償還）
- ③ 平成 26 年度予算への反映
  - ・収入の範囲内での歳出予算を組むよう努力、将来負担を先送りしない
  - ・新規事業の構築とそれに伴う既存事業の廃止・縮小の進捗

### アウトカム

- ・予算編成は収入の範囲内で歳出予算を組む
- ・財政の健全化を示す指標等の改善及び堅持、特に将来負担比率の改善、実質赤字比率の黒字堅持

### 取組結果・実施状況

平成 25 年度決算見込みは、市税の落ち込みにやや歯止めがかかったものの、社会福祉経費の増加や公営企業への繰出し等により、庁舎建設基金への早期返済は極めて困難となり、黒字維持のために財政調整基金の取崩しも余儀なくされる恐れがある。

平成 26 年度当初予算案での事業見直しも不十分なものとなった。

### 取組結果・実施状況

- ・予算編成は収入の範囲内で歳出予算を組む
- ・財政の健全化を示す指標等の改善及び堅持、特に将来負担比率の改善、実質赤字比率の黒字堅持

・積立金の計画的な積立て  
いずれも現状では困難。

(評価日) 平成26年3月19日

#### 行政評価委員の評価

- ・長期化する経済不況のなか、財政健全化に向けて尽力されていることが、ディスカッションのなかで理解できた。しかしながら、市役所に対する市民ニーズが多様化・高度化しているため、すべてのニーズを取り上げるのは困難と考える。そのため、重点すべき事業を明らかにし、スクラップアンドビルドの視点で計画的な予算編成を行っていくべきと考える。
- ・部長マニフェストには、記載されていないが平成26年度予算編成で7億円の削減を行っている。予算を削減することは重要なことであるが、市民サービスの向上につながる事業予算もあるため、削減した事業予算の内容を明らかにするべきである。予算計上されていないため、市民ニーズを正確に汲み取れているのか不明である。行政サービスを担う各部長がどのような予算要求を財務部に行い、どのように予算が編成されているのか、そのプロセスを明らかにすべきである。

## 重点課題 ②

# 市税のより適正で公平な賦課徴収と収納率の向上

取組中

(作成日) 平成 25 年 8 月 23 日

### 戦略課題の目標

適正で公平な賦課徴収に基づき歳入の根幹である市税の確保に努めます。

### 施策推進上の目標

適正な課税のために現地調査の実施や国・府と連携し課税客体の的確な把握に努めます。

適正な滞納整理による徴収に努め、市民負担の公平性を保ちます。

(評価日) 平成 26 年 1 月 31 日

### セルフレビュー

適正で公平な賦課徴収により市税の確保に努めた結果、一定の成果が出ている。

### 取組結果・実施状況

現地調査や各種資料により課税客体の的確な把握により適正な課税に努めました。

- 市民税において国税資料を活用して課税漏れや誤りを防ぎました。また、未申告者に対して申告書を送付して提出を促しました。
- 固定資産税の課税客体を市内巡回調査や空中写真撮影による写真データと地番図、家屋図データをマッチングさせて課税客体の的確な把握に努めました。
- 固定資産税の償却資産課税において、国税資料等から新規法人や未申告法人を把握して申告の催告を行いました。

### アウトプット

納税者に対し税の不公平感をなくし、現年課税分の年度内収納と滞納額の圧縮を図ります。

### 取組結果・実施状況

**適正な課税に基づき現年課税分の年度内収納と滞納額の圧縮を図りました。**

- 現年課税分の年度内収納を推進するため納付コールセンターによる電話勧奨や文書催告を繰り返し行っています。また、休日納税訪問及び休日納税相談の実施などにより年度内収納を推進しています。
- 滞納繰越分については、催告書により自主納付を促すとともに、自主納付の意志がない滞納者に対して厳正な滞納処分により滞納額の圧縮を図っています。

◎決算に向けて現在も取組中です。

### アウトカム

平成 25 年度収納率の目標を 94.1%とします。

### 取組結果・実施状況

平成 25 年度市税収納率 94.1%を目標に取り組んでいます。25 年 12 月末時点での収納率は 69.7%。最終収納率は決算確定時に判明します。

参考：24 年 12 月末収納率 69.5%→24 年度最終収納率 93.9%

(評価日) 平成26年3月19日

### 行政評価委員の評価

- 収納率が年々向上していることから、担当職員の努力が現れていると考える。引き続き、収納率向上に努められたい。
- 収納率の定義と算出方法が明らかになっていないため、収納率向上の要因が明らかでない。収納率に併せて、金額ベースなどで表現するよう工夫されたい。
- コールセンターが収納率向上の要因になっているとのことであるが、費用対効果を明らかにすべきである。
- 重点課題の名称に掲げているように、より適正で公平な市税の賦課徴収を行うよう取り組まれるべきであり、最終アウトカムは市民の公平性を確保することである。

## 重点課題 ③

### 適正な入札及び契約の執行

取組中

(作成日) 平成 25 年 8 月 23 日

(評価日) 平成 26 年 1 月 31 日

#### 戦略課題の目標

単に廉価を目指すだけでなく、民間企業の優れた技術力を活かすことにより、品質面での向上を図ります。

#### セルフレビュー

公共工事の品質を高める取組について工事担当者と契約担当者の意見交換を踏まえ、制度改善に取組中。

#### 施策推進上の目標

- ① 検査要綱等の改正  
事業課と連携し、検査体制の充実を図ります。
- ② 総合評価落札方式実施要綱の改正  
現在 1 億 8 千万円以上の工事及び建物総合管理になっている対象範囲の拡大を図ります。

#### 取組結果・実施状況

- ① 検査の評点について評価制度を設け、高得点なものの表彰制度等について検討中。
- ② 対象事業の拡大について検討中。

#### アウトプット

- ① 工事及び業務の品質を高める。
- ② 価格だけでなく、品質面を考慮した業者選定ができる。

#### 取組結果・実施状況

庁内ワーキンググループで評価体制及び対象事業拡大を検討中

## アウトカム

- ① 工事成績評価点の年平均アップ
- ② 総合評価方式入札の件数増加

## 取組結果・実施状況

工事成績評価点の年平均をアップしていく。  
総合評価方式入札件数割合を増加することにより品質面を考慮した業者を選定する。

(評価日) 平成26年3月19日

## 行政評価委員の評価

- 総合評価落札方式の対象範囲の拡大を早急に実施されたい。
- 工事、業務の品質向上を図るため、引き続き、適正な入札と契約の執行に努められたい。